

かがやき自立活動通信



草加かがやき特別支援学校 平成26年6月16日 No.12

6月25日に予定されている自立活動の保護者学習会には、たくさんの参加希望が出ています。現在、児童生徒の顔を思い浮かべながら資料の準備に取りかかっています。

今回は、学習会に参加される方も参加されない方も、一緒に予習をしましょう。



特集 自立活動保護者学習会予習 「ことばを育てる」

学習会では絵カードを使ったコミュニケーションの取り方も学習します。共通して押さえておきたいことをまとめました。

ウチの子は絵カードはいらないと思うのですが…？

ことばでのコミュニケーションができる子ども、聴覚優位な子どもも確かにいます。確認しておきたいのは、絵カードを使うのは、ことばが発せられないからではなく、いろいろな情報を視覚的に整理するためと考えてください。

例えば、今度の学習会も1時間程度ずっと話だけだったらどうでしょうか？「資料があればいいのに」「スライドはないの？」と思わないでしょうか？

江戸時代の寺子屋のように、漢文の素読をして耳から覚える学習法というものもありました。今でも歌舞伎や落語などは、師匠からの口伝えです。

しかし、現代は、バラエティー番組を見ると、タレントの発言がテロップ（字幕）に出たりしています。何も言わない時も「…」というテロップが出ます。天気予報では日本地図・関東の地図が映り、関東各地の天気や降水確率の3時間おきの表示が出ます。世の中全体が視覚によって理解を深めたり、視覚的な効果を活用していると思います。

視覚的な情報は残ります。聴覚的な情報は聞いた時点で消えてしまいます。聴覚的な情報は、記憶を補うのには弱い点があります。それを補うために、私たちはメモを取ったりキッチンタイマーなどを使って忘れないようにしています。

また、視覚情報を提供することで、必要な情報に注意を向けることができるようにしたり、優先順位がわかるようになります。

(株)シンフォニア東武という特例子会社があります。鉄道乗務員が使う施設を清掃したり、宿泊施設のベッドメイキングなどを行うのが仕事です。この会社は視覚支援が充実しています。そこで働く人たちが、仕事内容をきちんと理解し、効率よく働けるようにすることが大切だからと考えているからだと思います。シーツの置き場が視覚支援で示されていて、どこの部屋をシーツ交換すればよいかなどが一目瞭然です。窓拭きの手順もわかりやすいです。壁には小さなマークが付けられていて、掃除機をかける手順がわかるようになっています。

学年が進むほど「絵カードなんて子どもっぽい」と思うかもしれませんが、大切なのは子どもたちがわかるかどうか、ということです。企業が積極的に取り入れているのに、学校や家庭が「子どもっぽい」という理由で活用していないのは残念なことです。

ことばはいろいろな発達と関係があります

ことばはことばだけで育つものではありません。次のようなものの発達と関連があるとされています。

興味	人にかかわりたい気持ち、人・物・音への興味、好きな遊び、「もっとやりたい・ほしい」という気持ち、興味から来る集中力
知的な力	見分ける力・聞き分ける力、物と名称の一致、模倣、因果関係の理解（泣いたらミルクがもらえた）、音のフィードバック
姿勢	発声しやすい姿勢、手の操作性を高める姿勢作り
運動動作	物へ手を伸ばしたり興味のある場所へ移動することで興味を高め探索の楽しさを知る、利き手ができていること、手先の運動は脳を育てる
摂食動作	舌や唇の動き、喉の使い方
社会性	人と共感する体験、ことばをコミュニケーションの道具として使える、表情や声色の変化がわかる
聞こえの問題	

自立活動の指導では、これらの発達のバランスも考えながら指導をしています。発達段階に応じて、かかわりの中で、子どもたちの気持ちを代弁したり、状況や意味を補うような声かけをしたりしています。

ことばを育てる上で気を付けることは「子どものことばを直さない」ということです。こどもから「おあよ！」と挨拶をしてきた時に「おはよう、でしょ？はい、お・は・よ・う！」とことばを直したり、子どもが「ワンワンだ！」と言ってきた時に「ワンワンじゃないでしょ？い・ぬ！」はやめましょう。大切なのは、通じた・共感できたという実感を子どもに持たせることです。

草の芽を引っ張っても植物は大きくなりません。必要な水・栄養・日の光を用意し、あとは植物が自分の力で伸びて行きます。私たちも、子どもの力を信じ、その時に必要なものを用意しましょう。ことばという形にはならないかもしれないけれど、その子なりのコミュニケーションの花を咲かせてあげられるようにしていきましょう。



自立ノート

今年度の抽出が始まって1ヶ月少し経ちました。ことばがある子ども、ことばがない子どもがいます。ことばがある子どもには、話すことで感情のコントロールができるようになったり、気持ちの整理ができるようにすることも重要な指導内容です。ことばのない子には、安心した雰囲気の中でそれぞれの課題に取り組んでいます。小学部の子どもたちとは遊ぶことが多いです。遊びを手がかりにコミュニケーションを育てています。コミュニケーションの手段を増やしたり、確実なものにしています。